

## 岡山県社会福祉審議会 議事概要

### 【開催概要】

- 1 開催日時：令和5年5月29日（月） 10：00～11：35
- 2 開催場所：岡山県庁3階大会議室
- 3 出席委員名（計17名、敬称略 50音順）  
赤澤啓史、足羽憲治、江草明彦、岡崎文代、栢野万里恵、来住由樹、家守豊、  
財前民男、高山科子、田野洋一郎、塚原宏一、同前隆志、二宮一枝、  
萩野美智子、花房恭子、松本伊智朗、山崎親男

### 【議事概要】

#### ■議題1：委員長の選任等について

- ・委員の互選により、足羽委員が委員長に決定された。
- ・委員長の指名により、来往委員が職務代理者に決定された。
- ・委員長の指名により、専門分科会及び部会委員が決定された。

#### ■議題2：岡山県社会福祉審議会運営規程の改正について

金平福祉企画課長が資料3に基づき説明

#### ■議題3：令和5年度各部重点施策及び主要事業について

金平福祉企画課長が資料4、5に基づき説明

### 【発言要旨】

#### ■委員

県の保健所に倉敷市が入っていないがなぜか。

#### □則安保健医療統括監

岡山市は政令市、倉敷市は中核市ということで、それぞれ保健所を設置しているので、県の組織としては基本的にそこを除いたところをカバーしている。

## ■委員

子ども・福祉行政においては、子どもの減少が最大の課題だ。出生率が徐々に下がっている傾向があり、岡山県でも子どもを増やすための取組を行ってきたが、結果的に子どもの数は減少している。具体的に何が問題だったのか、どの施策が効果的だったのか、この資料からは十分に分からない。一般的に、民間の組織では成果が出なかった場合には評価や改善が行われるが、この資料ではそのような情報がない。また、奈義町が成果を出しているが、岡山県が独自の施策をどのくらい実施しているかも分からない。

### □横田子ども未来課長

少子化の要因は様々であり、どの施策によりどれだけ効果があったかを検証することは難しい面があると考えている。

独自施策については、県が市町村と連携して、より効果的な施策を実施するため、今年度から新たに、各市町村の特性などを分析しオーダーメイド型の施策を検討することとしており、まずは5つの市町村をバックアップする。奈義町で成果を出している事業なども参考にしながら個別の市町村を伴走支援することで、県全体の少子化対策が進むことを期待している。また、企業との連携も重要であり、今年度新たに県内企業の子育て支援の取組について調査し、成功している取組を他の企業にも横展開することなどを目指している。市町村や企業との連携をこれまで以上に強化し、少子化対策を進めていきたい。

## ■委員

少子化問題は長年続いており、スピード感が求められている。子どもを持つお母さん方にとっては喫緊の課題であり、1年や2年と時間をかける余裕はない。県庁職員も頑張っていることは承知しているが、意思決定や具体的な行動においてもっとスピード感を持つことで、多くのことが進む可能性があると感じている。

### □片山子ども・福祉部長

国も少子化対策に力を入れており、それに連動して県も取組を強化している。知事も少子化対策の緊急性を認識し、ギアを上げて取り組んでいく覚悟がある。これまでの取組が見えにくいとの指摘があったが、県の出会い・結婚支援の取組によって成婚に結びついた数も増えてはいるが、出産に結びつく成果が出るまでにはまだ時間がかかると考えている。国には児童手当などの経済的支援を行っていただき、県は地域ごとの事情にも寄り添いながら市町村や企業と協力して、出会いから結婚、出産、育児という流れをサポートする取組を進めたい。

## ■委員

少子化問題は、保育施設や幼稚園、公立学校などの運営にも大きな影響を及ぼすことになる。将来を見据えると、人口の減少は国力の低下につながる可能性があり、知恵を出し合っただけで急いで真剣に対策しなければならない。また、フランスのように非婚で子どもが生まれるという状況も考慮しなければならない。おそらく日本もそのような状態に向かっていく可能性があり、その点も踏まえながら、少子化対策を考えていかなければならないと思う。

## ■委員

社会福祉審議会は幅広い範囲をカバーしているので、各専門分科会の審議において町村会として熱心に関与していきたい。

少子化の要因については、現場では答えが分かりつつあり、結婚したくない人が増えていることが大きい。また、子育てについて、若いお母さんは子育ての方法が分からず0歳から保育所に任せるなどしており、保育士のなり手不足や保育環境の整備も大きな課題だ。まずは家庭からだということも忘れてはいけない。新型コロナウイルス感染症に関して、感染状況は落ち着いてきたものの、ワクチン接種の希望者が少ない。マスコミの発表方法の変化により、ワクチン接種に対する情報が分かりにくくなっていることも課題である。感染者数が徐々に増えている状況に対してしっかりと対応する必要がある。また、薬剤師の不足も危機的な状況であり、大型ドラッグストアの出現により、薬剤師が吸い上げられている現状が存在している。

### □松本医薬安全課長

薬剤師問題について、市町村立の病院を含めて薬剤師の厳しい状況が全国的な流れであるとの認識を持っている。今年度の国の第8次保健医療計画には、薬剤師の確保対策が位置づけられており、国のアンケート調査などをもとに、県の病院薬剤師会と連携し、薬剤師の確保に向けた具体的な対策を検討していく。

### □横田子ども未来課長

保育士不足について、特に県北で、保育士不足が深刻だということは把握している。県では、保育士・保育所支援センターを設けて、潜在保育士のマッチングに力を入れており、今年度は県北での就職相談会を強化するなど、潜在保育士の就業につなげていきたいと考えている。

また、結婚したくない人が増えている点については、高校生、大学生、企業の若手職員を対象に、ロールモデルを講師としたライフデザイン講座を開催している。結婚

ができない理由には、所得などの関係もあるため、産業労働部等とも連携しながら対応してまいりたい。

□矢吹ワクチン対策室長

今年度のワクチン接種につきましては、接種対象者を絞りながら開始しており、最大で6回目の接種の方もおられる。接種を進めていくためにはわかりやすい広報が重要であり、市町村とも連携しながら進めていきたい。

□和田新型コロナウイルス感染症対策室長

5月にこれまでの2類感染症から5類感染症へと位置づけが変わり、感染者数の公表については、これまでの毎日の発表から週1回の発表へと変更になっている。新しい公表の方法になじみがない県民もおられるため、県のホームページでは、5月7日までの感染者数を参考値として現在の定点医療機関報告値と比較できるような形で掲載している。今後ともわかりやすい広報に努めてまいりたい。

#### ■委員

保育所の在り方について言うと、保育士の配置基準は6歳児20人あたりの保育士は1人となっている。それだけ多くの園児がいると保育士は個人個人を見ることができない。ただ、行政は少しでも多くの園児を詰め込もうとする。ここにすごいギャップがある。だから保育士になりたがらない。専門分科会でも議論していきたい。

#### ■委員

保育園の団体で協議会副会長させてもらっている。保育士の配置基準は厳しい状況であり、現場では実際の保育人数が基準に達していないことが問題となっている。特に1歳児の受け持ちが課題とされており、各保育園が様々な支援を受けながら対応している。報道で不適切保育とされるケースも一部あるが、大半の保育士は最善を尽くしており、団体としても頑張っ取り組んでいきたい。

#### ■委員

地元でもなく事情もよく分からないが、まず資料の見方に関して2点教えてもらいたい。1点目は、子ども・福祉行政の概要と保健医療行政の概要は同じ構成になっているが、どちらも最初の方に重点施策の記載があり、その後に主要事業の概要が続く。重点施策と主要事業はどういった関係にあるのか。

2点目は、障害福祉課の主要事業の中に低所得者福祉が含まれていることについて。一般的には、医療保健行政や高齢者分野も生活保護制度全体に関わるセンターが関与し

て機能すると理解しているが、障害福祉に関する記載の中で低所得者福祉について記載されている理由は何か。

□金平福祉企画課長

まず、資料のつくりについてであるが、岡山県は「晴れの国おかやま生き生きプラン」という最上位のプランを持っており、その中にいくつかの戦略プログラムを掲げている。そのプログラムに合わせて毎年度重点的に取り組む事業を決めており、それが資料の最初に出てくる重点施策の部分である。一方で、資料中の主要事業というのは各課別に取り組んでいる主な事業を記載しているため、主要事業と重点施策が重複している部分もある。

また、生活保護の関係であるが、障害福祉課の中に保護班という班があり、生活保護関係の業務を所掌しているため、障害福祉課の主要事業の中に生活保護の内容を記載している。

■委員

1点目について、重点施策は県の計画の中で書いてあるものの抜粋であり、主要事業は各課室の事業ということだが、重点施策というのはどのように決まっていき、そしてどのような形で評価が行われるのか。

□金平福祉企画課長

重点施策は、この審議会だけではなくて、県全体の中で行政評価が行われている。毎年度、生き活き指標という指標が達成できているかということで評価を行っており、議会等にも報告している。

先ほど、少子化対策について評価を見ながら次の施策を打っていくべきではないかという御意見もあったので、今後はそういった評価について本審議会で報告するようなことも含め検討してまいりたい。

■委員

他で評価が行われているのであればその内容を教えていただき、この審議会でも意見交換できるということは大事なことだと思う。

また、重点施策・主要事業ともに昨年度からの変化が分からない。何か新しく始めた事業や廃止した事業はあるのか。県としてどこを弱みだと思っているのか、何を重点化しなきゃいけないのか、あるいはここを強みだと思うので伸ばさなきゃいけないと思っているのかというところがよく分からない。

□金平福祉企画課長

前年度と今年度の施策の差について、今後の審議会ではそういった形でも出していると思う。今回、昨年度との差につきましても、少し資料を作らせていただき補足で後日お送りさせていただくような対応でもよろしいか。

■委員

構わない。

冒頭、評価に関わる意見があったが、私も評価の問題と併せて計画のことを考えるというのは大変重要だと思う。少子化に関わる全体の計画なりどういう変化があるか、評価に基づいてどういうふうに変えていくか、変えていかないかを考えることが重要だ。

■委員

事業廃止や新規事業がわかれば、評価によって変わったということがわかりやすいのではないか。新旧対比表や新規事業とか廃止事業を分けて表にするなどでもよいかと思うので、工夫をお願いしたい。

□片山子ども・福祉部長

少し工夫して中身を見繕い、委員長と相談の上、委員の皆様方にまた後日配布させていただきたい。

■委員

先ほど結婚ということに関してもう少し幅広く捉えるような観点も必要ではないかという意見があったと思うが同感だ。自治体で想定しているのは婚姻届を出して結婚する法律婚かと思うが、日本でも多くはないが事実婚あるいはその結婚にはよらない子どもを持つ・育てるという形も出てきている。今後そのような形が増えていく中で、そこも含めて子どもを持つこと・育てることを支援するという観点で少子化対策を考えるということが、今後10年・20年を考えた時には重要になる。この点は色々な意見があるところだと思うが、意見として述べさせていただく。

■委員

社会的養護の関係で、施設で大きくなった子どもが大学等に通えるように支援をしている。少子化対策も大事だが、今生きている子どもたちにどういうふうになくなってもらうかという支援も一緒に考えていかなければならない。特に社会的養護の元を離れた後の支援というのは、残念ながらなかなか大変な思いをしている子どもたちがたくさんいる。産み育てるだけではなく、生まれた子どもをこれからどう大きくしていくかと

いうことを考えないと、やはりこの国は良くならない。そういうところ応援していきたいと思っており、皆さんのご協力よろしくお願ひしたい。

■委員

民生委員の方と地域を回っていると、高齢の親を持つ、引きこもりの方にたくさんいることがわかる。そういった問題に対しても、県も自分たちも取り組む必要がある。ご両親が亡くなった後どうするのか、ご両親は本当に心配している。皆さん一緒に地域の方に助言して明るい日本になってほしい。

□片山子ども・福祉部長

社会的養護のお話があったので、子ども家庭課から県の取組を少し紹介したい。

□青木子ども家庭課長

これから生まれてくる子どもだけでなく、今いる子どもの社会的養護やその後の支援も大事だというお話をいただいた。改正児童福祉法が令和6年4月から施行されるのはご案内のとおりだが、県の取組としてもまず一番は子どもの権利擁護ということで取り組んでいるほか、里親への委託も推進している。児童相談所職員等の地道な活動の結果、里親等委託率は全国でも高くなっている。自立支援に関しても、今年度から施設や里親の子どもの措置が解除になった後、大学等に通う場合に支援をする新規事業も行っている。また、施設の退所者への相談支援についても、以前からNPOに委託して実施している。しっかり社会的養護の推進に取り組んでいきたい。

■委員

現在、国において共同親権に関する議論が進んでいる。昨今、夫婦の3分の1は離婚するという状況の中で、両親が一緒にいても別れても子どもへ愛情がきちんと注がれることが基本になる。そのため、社会的養護という話になるときに、ひとり親や離婚した家庭ということに関係なく支援していくような施策の展開が必要である。

■委員

他の委員から、子どもが産まれるまでの支援も大切だが、生まれた後の子どもについてももしっかり支援するべきだという意見があったが、まったくそのとおりだと賛同する。少子化対策が基本となって様々な重点事業がぶら下がっていると思うが、いわゆる子どものいる家族に対する支援策はあるけど、子ども自身に対する支援がやはり弱い。そのあたりを県の重点施策に位置づける方法はないのかなと思う。子どもを中心ということと、家族を支えるということが二つきちんと重点に入る形で組まれると計画の見え方としてもスッキリする。

□片山子ども・福祉部長

ありがとうございます。来る子どもをいかに増やすかっていうことと、今いる子どもをしっかり支援するということの両輪が必要だろうと思っている。重点の位置づけも含め、今後しっかりと取り組んでまいりたい。

以上